



## 「百数十万」「200万」「14万」「54万」

沼津市青少年健全育成地域相談員総括 内田卓雄

毎朝の散歩で、原小中生の通学と一緒にいる。通学路の辻々には見守り隊なるジャケットを纏った地域の人たちが、通学の安全を図りながら、大きな声で「おはよう」と声をかけている。先日にはしゃがみ込んでこのジャケットのおばさんと話し込んでいる子どもも見た。沼川沿いの通学路は四季折々の変化を魅せる。菜の花に桜に紫陽花。カモやオオバンが群れてサギが餌をねらい、富士山も今は白く輝いている。子どもたちの通学途上の会話も楽しそうである。

もう20数年前のことだが、NHKが北海道の小学生「愛ちゃん」を追っていた。在校生1人の数km先の分校に雪中を転げるようにして愛ちゃんは通学していた。親は敢えて送って行かない。

学校では計画的意図的な教育が施されているが、通学もまた子どもにとって無意識の学びの場になって学校教育全体を構成しているのである。社会的な自立に向けて、自然を学び、人間を学び、社会生活に必要な知識、技能を得、卒業していくのである。

だが、学齢期にこのような学校内外の教育的経験を経ずに卒業していく子どもがいる。

百数十万人。夜間中学校が作成したDVD「こんばんはⅡ」にある、いわゆる形式卒業者の数である。形式卒業者とは不登校等で義務教育を殆ど履修していないにもかかわらず、「全課程を修了したことを証する」なる卒業証書が授与されて、学校を去り、学ぶ機会を得ないままに生活している人たちのことである。私もこのような形式卒業者を送り出してきた一人として自責の念に駆られてやまない。「何割引が分からないのです」。この一言がぐっと心に迫る。平成28年12月。国会は全会一致で「義務教育機会確保法」を制定し、学びなおし機会の確保に動き始めた。何のためにこの仕事はあるのかと自らに問い続けて教職生活を送ってきたつもりではあるが、彼らのその後までこの問いの解を探す視野に欠けていた。

11月、御殿場市で開催された県更生保護大会で、若林御殿場市長と廣岡政幸氏（若者教育支援センター）が対談し、壇上に「大人の孤立無援者200万人」「不登校14万人」「ひきもり54万人」がブレゼンされた。我が国は想像を超えた速度で超少子高齢化社会に向かっている。労働者不足が深刻。それで外国人労働者の受け入れが取り沙汰されているが、その前に、である。「すべての市民が活躍できる社会」の構築に向けて私たちに何ができるのか。おそらく、この地域相談員制度もそこに今日的な意義が派生しているのではないかと思うのである。

# よく来てくださいました

青少年教育センター所長 糸川祐一

昨年の10月25日に、文科省から「不登校児童生徒への支援の在り方について」という通知が出されました。通知文の冒頭、「不登校児童生徒数は依然として高水準で推移しており、生徒指導上の喫緊の課題となっております」という文章から始まっています。このことについては、沼津市においても決して例外ではない状況と認識しております。

この通知には、不登校児童生徒への支援に対する基本的な考え方として支援の視点が次のように明示されています。

支援の視点：～不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること。また、児童生徒によっては、不登校の時期が休養や自分を見つめ直す等の積極的な意味を持つことがある一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益や社会的自立へのリスクが存在することに留意すること～

文章としては理解できますが、学校では先生方が、「なんとかこの子を学校に戻したい」と願い、保護者も「社会的な自立って？いつになったら明かりが見えるの？学習も遅れてしまい、進路も見えない」と不安や焦燥感が高まります。

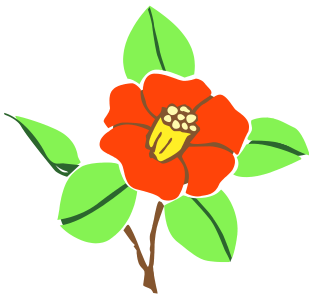
このような不安を少しでも軽減し、不登校や思春期の子どもたちの心理を理解していただくという願いから、本センターの専門家によるこどもの成長を支える育て講座「そよかぜ」を実施しています。講座の中で、石川心理士は思春期や不登校の時期を「蝶になる前のさなぎの時期」とたとえてお話ししました。「蝶になる前のさなぎは、中がぐちゃぐちゃしていて、まだ固まっていない。時々ぴくっと動くけど、また動かなくなってしまう。心配し、待てずに外からつついてしまう。さなぎが外から傷つけられようものなら蝶になれずに…。子どもたちの力を信じて待ちましょう」と。熱心にメモを取りながら聞いている保護者の方々。中には聴講しながら涙を流されている方もいました。いかに今、目の前で苦しんでいる我が子の気持ちを理解しようとしているかが伝わってきました。また、同時にいかにご自身が苦しんでいるのかも。

本センターに相談に来る方々は皆、苦しみ、悲しみ、怒りなどの気持ちをもたれて来所します。本センターの職員が忘れてはならないのは、様々な思いをもたれて来られた方々へのねぎらいの気持ちだと私は思っております。「他人から援助されるということは、内心の痛みを伴うこと」とも言われます。相談をすることは当たり前のことではないのです。「お父さん、お母さん、ごめん」と今の自分を責める児童生徒もいます。自分の子育てが間違っていたのではないかと自分自身を責める保護者もいます。「あなたの育て方が悪いからよ」と周囲に責められ傷ついている保護者もいます。けれど、不登校にするために子どもを育ててきた親もいなければ、不登校になりたいと思っ

て育った子もいません。  
様々な痛みをもちながら相談をかけてくださる児童生徒、保護者に対し、私たち職員は、これからも「よく来てくださいました」とお迎えし、相談にのってまいります。



# 面接相談



◎非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など  
 青少年に関する面接相談。  
 ◎相談および申し込み受付時間：  
 午前9時～午後5時 月～金曜日（祝祭日を除く）  
 ◎相談申し込み：Tel.951-3440

## 令和元年10・11・12月の状況

各月の新規相談件数、相談ケース数、延べ相談回数は以下のとおりでした。

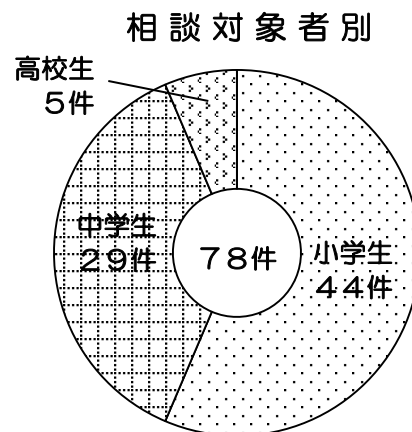
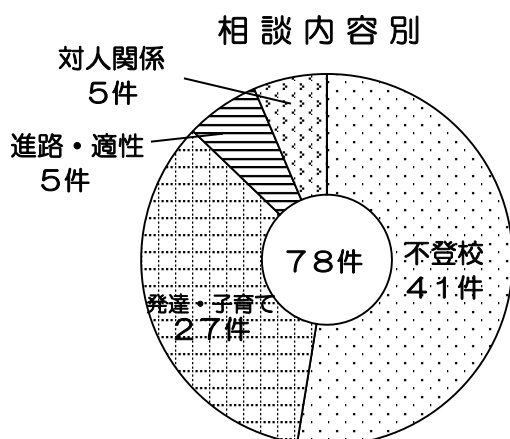
### 1 各月の新規相談件数（相談内容別）

	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
10月	0	9	3	0	0	0	12
11月	0	5	7	1	0	0	13
12月	0	4	3	1	0	0	8

### 2 各月の新規相談件数（相談対象者別）

	幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人	合計
10月	0	8	4	0	0	0	12
11月	0	6	7	0	0	0	13
12月	0	6	2	0	0	0	8

### 3 4月から12月までの新規相談受付状況



#### 4 4月から9月までの相談ケース数

※年度における相談者1人を相談1ケースとする

	非行	不登校	縫・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
男	0	31	28	7	4	0	70
女	0	35	13	6	2	0	56
合計	0	66	41	13	6	0	126

#### 5 4月から9月までの延べ相談回数

	面接	訪問	合計
男	828	0	828
女	483	0	483
合計	1,311	0	1,311

#### 6 はばたき活動の様子

10/ 9(水)牛乳パックでホットドッグ(4人)

10/30(水)富士山世界遺産センター (5人)

11/13(水)たこやきパーティー (7人)

11/26(火)墨絵 (3人)

12/ 4(水)みかん狩り

※相談指導学級と合同 (15人)

12/17(火)ミニクリスマスツリー作り(5人)

10～12月は、季節を生かした活動を多く取り入れました。狩野川河川敷「風のテラス」でのホットドッグ作りでは、秋の風のさわやかさも感じながら楽しく活動しました。富士山世界遺産センターの見学では、富士山の美しさ、壮大さに感動しました。相談指導学級と合同で出かけたみかん狩りには、合わせて15人が参加し、おいしいみかんに舌鼓をうちました。墨絵やクリスマスツリー作りでは講師の先生の指導を受けて全員が素晴らしい作品を仕上げました。

今年度は小学生の参加も増え、小学生、中学生の区別なく活動している姿が多く見られます。顔見知りが多くなるにつれ、新しい仲間を迎え入れる温かい雰囲気もできてきました。異年齢の小集団で関わり合えるのが、はばたき活動の良さです。関わりながら一人一人がたくましくなっていくのを感じています。

#### 7 相談指導学級の様子

通級する生徒たちは、2学期も農園体験、調理体験、ハイキング、創作活動など様々な体験を通して充実感や達成感を味わいました。中には、学校行事の職場体験に参加した生徒や週に1度相談室に登校した生徒もいました。また、中学校若手教員による体験研修が19回行われました。研修の目的は、学校を離れて学ぶ生徒と触れ合う機会をもち、その現状と関わり方について理解を深めるものです。毎回1名の教員が参加し、生徒と触れ合うとともに、国語、社会、数学、理科、英語、美術、体育など様々な授業（教科指導）を行いました。どの授業も生徒が取り組みやすいように工夫され、最初は緊張していた生徒たちも「久しぶりに顕微鏡を使えて良かった。また観察してみたい。」など、授業を楽しみにするようになりました。教員からは「みんな明るく学習していたので、不登校生徒に対する認識が変わると同時に、時間が短く感じられました。」などの感想がありました。

中学3年生2名、中学2年生8名の計10名で3学期を迎えました。1年間を振り返ったり、次年度のことを考えたりするこの大切な3学期の中で、さらなる生活習慣の改善、良好な友人関係の構築、学習意欲の向上を目指していきます。特に、中学3年生にとっては進路決定の大切な時期に当たります。引き



【井田の菜の花と富士山】

続き学校との連携を図り、生徒一人ひとりに寄り添いながら、自立を支援していきたいと思えます。



# 電話相談

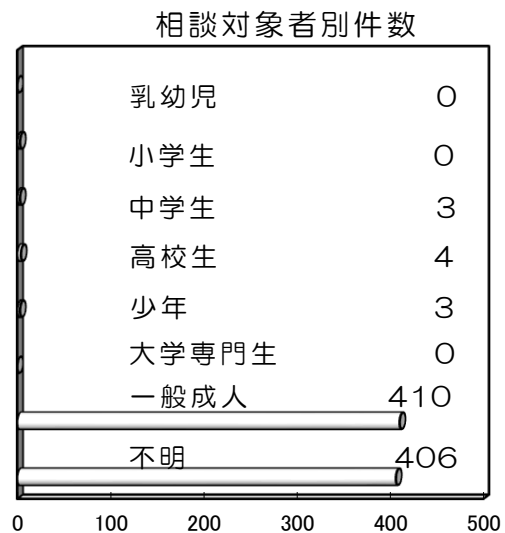


◎非行・不登校・発達・進路・対人関係など青少年に関する相談。  
 ◎相談時間：午前10時～午後7時 月～金曜日(祝祭日を除く)  
 ◎愛称：やまびこ電話 951-7330

## 令和元年10・11・12月の状況

10月には343件、11月には261件、12月には222件の相談が寄せられました。  
 (前年10月：212件、前年11月：261件、前年12月：290件)

### 1 10・11・12月の相談状況



### 2 令和元年度の電話相談受信件数状況

総件数 2,668件 (前年同期2,998件)

#### (1) 相談内容別

	非行	不登校	発達	性	進路・適性	対人関係	学校生活	問合せ他	無言
件数	0	8	20	55	1	34	10	1,183	1,357

#### (2) 相談対象者別

	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	大学専門生	一般成人	不明
件数	0	8	16	8	5	3	1,262	1,366



# 自然も人も何か変です

戸田地区少年補導委員 鈴木良隆

異常気象による豪雨災害、「誰でもいいから殺したかった」など、自然も人も何か変です。我が子の健やかな成長を願わない親はいないのに、我が子への虐待を繰り返し、尊い命を殺めてしまう事犯も後を絶ちません。一方、成長過程の少年の凶行も後を絶ちません。令和元年11月12日に青森県八戸市で起きた女兒切りつけ事件は記憶に新しいものだと思います。「殺すつもりだった。誰でもよかった。」と言っていた中学生は、犯行当日通常通りに登校。学校側の会見では、運動部の活動にも熱心で、入学後大きな問題もなかったとのことでした。そんな少年が、なぜこんな凶行をしてしまったのでしょうか。残念なことですが、これまでも「人を殺してみたかった。誰でもよかった。」という理由(?)で、凶行に及んだ事件が起きています。これからも忘れた頃に起きるだろうと思うことが恐ろしくもあります。と同時に、そんな凶行をさせないことはできないだろうかとも思います。そんな思いでいるとき、新聞に掲載されていた『ケーキの切れない非行少年たち』という書籍案内が目にとまり、早速購入して読みました。本書は児童精神科医である筆者が、医療少年院での勤務経験を基に書かれたもので、そこで向き合ってきた少年たちの真の姿が書かれています。最悪の殺人を含め凶行に至った少年たちは、支援を必要としている子どもたちで、その少年たちに必要な支援が届いていたら、悲惨な凶行をさせないで済んだかもしれません。必要な支援は少年たちが発するサインに気づくことから始まります。気づくためには関わるのが必然です。社会の宝である子どもたちを温かく見守ることの継続が、不幸な犯罪抑止の大きな力になると改めて思います。

## 1 少年補導委員の延べ参加人数(10・11・12月)

	市職員	教員	女性補導委員	母親補導委員	地区代表補導委員	警察	地区補導委員	総数
10月	15	13	5	3	6	0	215	257
11月	19	10	10	7	14	0	240	300
12月	12	14	6	4	3	0	96	135

## 2 補導回数・補導状況(10・11・12月)

	補導回数				行為に対する注意・指導	愛の声かけ	法令違反・ぐ犯行為に関する連絡※	
	午前	午後	夜間	計			家庭・学校等	他機関
10月	3	10	28	41	27	258	0	0
11月	3	9	32	44	50	189	0	0
12月	2	6	9	17	31	116	0	0

※ ぐ犯行為…将来、犯罪に発展するおそれのある行為

## 3 補導活動(今年度12月までの累計)

補導回数	延べ参加補導委員数	行為に対する注意・指導	愛の声かけ	法令違反・ぐ犯行為に関する連絡※	
				家庭・学校等	他機関
345	2,568	440	1,917	0	0

#### 4 10・11・12月の街頭補導少年の学職別状況（中央・地区別補導）

12月に行われた県内一斉冬季少年補導へのご協力ありがとうございます。昨年度に比べ、注意や指導をすべき行為は減少していますが、「愛の声かけ」は増加しています。補導委員の皆さんが積極的に青少年を守ろうとする姿勢の表れだと感じています。寒さが厳しくなる季節ですが、今後も引き続きよろしくお願ひいたします。



区分	学職別	性別	小	中	高	その他	有職	無職	計	累四月から計の
			学	学	校	学	少	少		
			生	生	生	生	年	年		
行為種別	飲酒	男							0	0
		女							0	0
	喫煙	男							0	0
		女							0	0
	薬物乱用	男							0	0
		女							0	0
	夜間はいかい	男			2				2	18
		女			5				5	18
	不良交友	男							0	0
		女							0	0
	怠学・怠業	男							0	0
		女							0	0
	ゲームセンター入場	男	7	10	40				57	164
		女	5	6	25				36	174
	パチンコ店入場	男							0	0
女								0	0	
カラオケ店入場	男							0	1	
	女							0	3	
自転車の暴走行為	男							0	4	
	女							0	1	
自転車の二人乗り	男							0	1	
	女							0	1	
自転車の無灯火	男	1		3				4	18	
	女							0	1	
危険な遊び	男							0	19	
	女	2						2	5	
その他	男							0	9	
	女	1	1					2	3	
計		男	8	10	45	0	0	0	63	234
		女	8	7	30	0	0	0	45	206
男女合計			16	17	75	0	0	0	108	440

法令違反・ ぐ犯行為 に関する 連絡※	家庭・学校等	男							0	0
		女							0	0
	他機関	男							0	0
		女							0	0
男女合計			0	0	0	0	0	0	0	0

※ ぐ犯行為…将来、犯罪に発展するおそれのある行為

愛の声かけ運動	男	81	76	112				269	1,056
	女	84	68	142				294	861
男女合計			165	144	254	0	0	563	1,917

## 「高校生による落書きクリーン作戦」

沼津市では、青少年健全育成事業の一環として、高校生による落書きクリーン作戦を実施しています。これは、市内の公共の場の落書きを高校生の手で綺麗にすることで、環境浄化の大切さを伝え、広げていくことを目的としています。19年目になる今年は、桐陽高等学校の生徒さんを中心に、引率の先生、沼津市補導委員、青少年教育センター職員で、246バイパスに架かる橋の橋脚の落書きを消しました。慣れない活動に最初は戸惑っていましたが、次第にコツを覚え、協力しながら進めることで、とても綺麗な場所になりました。以下に、生徒さんたちの感想（抜粋）を掲載します。

個性が集結してソフト部になっていることを改めて強く感じました。ペンキの塗り方にも様々な個性を見せる仲間が、周りの動きを意識し、仲間に合わせて作業に取り組んでいました。夏休みの厳しい練習を一緒に乗り越え、信頼関係を築いたこの時期にこの活動をすることで、仲間の存在やそれぞれの個性や役割を感じることができ、よい経験となりました。  
【小池伽奈】

私は物事に一生懸命取り組むことの大切さや、やりきった時の達成感、そして嬉しさを実感しました。この活動により、「ここは自分たちが見ています」というような、監視の目となることで、落書きをする人が少しでも減るのではないかと考えています。これからも様々な面で、監視の目になって日本の環境や安全を守っていきたいと思いました。  
【日高詩織】

落書きを白に近いペンキで塗りつぶしていると、落書きした人の心も白くしているようで何だか良い気分になりました。落書きされた壁を綺麗に塗れたという達成感と共に、沼津の街の印象をよくできたという充実感を得ることができました。これから街の印象が少しでも良くなるように、ごみを捨てたりするなど、積極的に行動しようと思いました。  
【加藤紗己】

私は、街を綺麗にすると、心も綺麗になるような気がしました。自分たちの愛する地元の沼津が少しでも綺麗になり、とても嬉しいです。この体験を通し、ボランティアや協力といった、人として、また、私たちソフトボール部としてとても大切なことを学びました。将来社会で役に立てるように頑張りたいと思いました。  
【岩上愛深】

一塗りごとに緊張がとれ、また、コツもわかり、全員でとても綺麗に仕上げることができました。落書きの目立つ壁が綺麗になった時、とてもスッキリした気持ちになりました。これからも、地域活動をする事で自分の地域を綺麗にしていきたいと思いました。  
【南 唯希】



## 青少年教育センターの活動予定 (2・3月の主な活動)

※天候による変更あり

相談指導学級		はばたき活動	
2月6日(木)	創作活動	2月12日(水)	調理体験
13日(木)	調理体験	3月11日(水)	マジック教室
20日(木)	創作活動	補導関係	
3月5日(木)	ハイキング	2月21日(金)	補導委員会代表者会⑤
12日(木)	創作活動		